

本当の価値は、どこにあるのか。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2639号
(2011年1月19日発行)より

昨日、私が脚本担当でかかわっている、横浜市青葉区小中高生ミュージカルの稽古場に、新聞記者のかたが、取材に来られました。あれこれお話しするなかで、「今回の作品のテーマは何ですか」とたずねられました。

「伝えられなかった思いを、伝えることです。伝わらずにいた思いを、受け取ることです」私がそうこたえると、そばで聴いていた、事務局のMさんが、こう言い添えました。「10年間、一貫してのテーマというものもありますよ」

記者さんが、興味深そうな目をして、「それは何ですか」とたずねられました。Mさんが言いました。「つながりです」

そう、「つながり」です。それは、私の一生のテーマと言えるものかもしれません。そして、そのとき、私は、Mさんが、そうこたえてくださったことに、ひそかに胸を熱くしていました。

青葉ミュージカルにおける、Mさんの仕事は、事務局です。それぞれの関係機関に、必要な連絡をとったり、保護者のかたに案内を出したり、子どもたちの対応をしたり、チケットの申し込みを受け付けたり、ときには、苦情に対応したり…。その他さまざまあらゆることを、本当に、地味に、地道にやっていく仕事です。

きちんとやって当たり前(きちんとやらないと、進まない)。そのくせ、どれだけやっても、けっしておもてに出て、光を浴びる仕事ではないのです。しかも、それら一切がボランティアの活動なのです。

さらに、Mさんは、当初こそ、自分のお子さんが出演されて、そのかわりから、事務局を引き受けることになったのですが、そのお子さんも、とっくに卒業していますから、いまは、本当なら、抜けてもおかしくはない立場なのです。それでも、やめずに、ずっとつづけてきてくださいました。

立場上、うれしくないことも、少なからずあったはずですが、日中は自分の仕事をしているわけですから、終わってから稽古にかかわり、さらに事務局のさまざまな対応…。その両立やら何やらで、ときには、やめようかと悩んだ時期があった

ことも知っています。

そのMさんが、記者さんに言ってくださったことばが、「つながり」だったのです。脚本を担当する私が、伝えたいと思っていた思いを、このミュージカルをずっと支えてきてくれたMさんが、誰よりもよく知っていてくれた、ということなのです。

ちまたには、「自己実現」「願望達成」「成功哲学」というようなことばがあふれ、多くのひとが、何かをなさなければ、自分ほみとめられない、成功したとは見なされない、という幻想に翻弄されています。でも、自分自身のためではない、しかも、おもてだっって評価されることのない立場で、深いところをわかって、黙々と活動されているかたが、確実にいるのです。そして、おそらく、Mさんのようなかたが、きつと、全国にたくさんいらっしゃるのだと思うのです。

ものごとを本当に動かしていくときに、一番ちからになるのは、そういうかたがたなのだ、あらためて思いました。そして、そういうかたがたの真価が、もつともつとみとめられてほしいなあ。みとめることのできる世の中であってほしいなあ、思わずにはいられません。

あなたもまた、ときには、自分自身の仕事というものに、疑問をもつことがあるかもしれません。日の目を見ることのほうが、価値のあることのように感じることもあるかもしれません。

でも、もう一度、自分の仕事を振り返ってみてください。直接「職業」というかたちの仕事でなくても、ですよ。そして、あなたの仕事の尊さに、どうぞ気づいてください。そこにかかわる、あなた自身の価値に気づいてください。

今回、私が、Mさんをとおして教えられたように、私たちは、もう一度、価値というもののありかたについて、見直す時期が来ているのかもしれません。本当の価値は、どこにあるのか。その見かたが変わったとき、おそらく、社会のありかたも、少しは、変わっていくのかもしれません。10年かかわってきた活動のなかから、いま、そんなことを感じています…。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2010年12月、2600号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>